へ 5
1039
2上

[illegible]人發句類題 秋之部目録

時候之部


| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 立秋 | 廿十 | [illegible] | 二 | [illegible] | 三 | [illegible] | 三 |
| 三日月 | 三 | 稲妻 | 四 | 十六夜 | 四 | 後の月 | 四 |
| 星月夜 | 五 | 鶺田鴫 | 五 | 文月 | 五 | 葉月 | 五 |
| 葉月 | 五 | 秋秋 | 六 | 七夕 | 六 | 玉祭 | 六 |
| 天川 | 七 | 二の[illegible]棚 | 七 | 彩ひの景 | 七 | 千草盆 | 七 |
| 星合 | 七 | [illegible] | 七 | [illegible] | 八 | [illegible] | 八 |
| 送火 | 八 | [illegible] | 八 | 棚経 | 九 | 蓮飯 | 九 |
| 墓参 | 九 | 生身魂 | 九 | 盆の月 | 九 | [illegible] | 十 |
| 新仏 | 十 | [illegible] | 十 | 残暑 | 十 | すまひ | 十一 |


[illegible] 図書

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 秋風 | 十一 | 鉦子入 | 十二 | [illegible] | 十二 | 捨扇 | 十二 |
| 初あらし | 十二 | 霧 | 十三 | 露 | 十三 | 後の藪入 | 十三 |
| 二百十日 | 十三 | 稲妻 | 十四 | 野分 | 十四 | 早稲 | 十五 |
| [illegible] | 十五 | 木綿取 | 十五 | 田刈 | 十五 | 晩稲 | 十五 |
| [illegible] | 十六 | 後の雛 | 十六 | [illegible]入 | 十六 | [illegible] | 十六 |
| 八朔 | 十六 | 駒[illegible] | 十六 | 放生会 | 十七 | [illegible] | 十七 |
| [illegible] | 十七 | 案山子 | 十七 | 引板 | 十八 | 落し水 | 十八 |
| さし鯖 | 十八 | [illegible] | 十八 | 初[illegible] | 十八 | [illegible] | 十八 |
| 河[illegible] | 十九 | 鏡 | 十九 | 落鮎 | 十九 | 沙魚 | 十九 |
| 草の市 | 十九 | 新[illegible] | 十九 | 柿 | 十九 | [illegible] | 二十 |
| [illegible] | 二十 | [illegible] | 二十 | 新酒 | 廿一 | [illegible] | 廿一 |
| 長[illegible] | 廿二 | 秋の[illegible] | 廿二 | [illegible] | 廿二 | 蚯蚓なく | 廿二 |
| 秋[illegible] | 廿二 | [illegible] | 廿三 | 秋の香 | 廿三 | 秋の雨 | 廿四 |
| | | 植もの部 | | | | [illegible] | 廿四 |
| 一葉 | 廿四 | 柳ちる | 廿四 | [illegible] | 廿五 | [illegible] | 廿五 |
| 木槿 | 廿五 | [illegible]の花 | 廿五 | [illegible] | 廿六 | [illegible] | 廿六 |
| 曼珠沙花 | 廿六 | 男へし | 廿六 | 蘆 | 廿六 | [illegible] | 廿七 |
| 秋海棠 | 廿七 | 萩 | 廿七 | [illegible] | 廿八 | [illegible]の花 | 廿八 |
| 稲の花 | 廿八 | [illegible]かくし | 廿八 | 糸瓜 | 廿九 | [illegible] | 廿九 |
| 蓮の実 | 廿九 | [illegible] | 廿九 | [illegible] | 廿九 | [illegible] | 三十 |
| 桔梗 | 三十 | [illegible] | 三十 | 紫苑 | 三十 | [illegible] | 三十一 |
| [illegible] | 三十一 | 鳳仙花 | 三十一 | [illegible] | 三十一 | [illegible]の花 | 三十二 |
| 稲 | 三十二 | [illegible] | 三十二 | [illegible] | 三十二 | [illegible] | 三十三 |
| うら枯 | 三十三 | 烏瓜 | 三十三 | 蔦 | 三十四 | 梅もどき | 三十四 |

ぬかご 三十四
木犀 三十五
木の子 三十五
蟲 三十七
秋の蟬 三十七
ちりくす 三十八
ゆかご 三十九
せみぬけ 四十
帰て雁 四十一
鳴しぎ 四十二
秋を終 四十三
秋の蝉 三十八
秋の蛟 三十七
たゝり地 三十九
鶉 四十
鶉の田 四十二
秋の源 四十四 四十五
月の蒙 三十四
栗 三十五
栗 三十六
芒 三十五
秋の蟬 三十六
葉虫 三十七
ゆかご 三十九
雁 四十
つゝ 四十一
ひらめり 四十二
雞 四十三
かぶ蕈 三十四
核のこ 三十五
熟柿 三十六
ゑの蕈 三十六
秋の蕈 三十七
蝙蝠 三十八
蟋蟀 三十九
雁 四十
ゑつゝ 四十一
蕈ぬめり 四十二
紅葉 四十三


秋部終

# 古人丑百歌　冬之部目録


降もの之部
霜 一
雪 二
雪 二
たゝみ紙 三
たゝみ紙 三
たゝみの紙 四
たゝみの紙 四
ゑの紙 六
ゑの紙 六
霜柱 七
水柱 七
時候之部
霜月 八
小春 八
霜月 九
師走 九
神楽 十
神楽 十
子の日 十
吹革 十
神の日 十
神楽 十
十夜 十
半僧坊 十一
御命講 十一

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大根蒸 | 十一 | 味噌雑 | 十二 |
| 雲丹仕様 | 十二 | 大師講 | 十二 |
| 植物之部 | | | |
| 切干菜 | 十二 | 木の葉 | 十四 |
| 柘榴形式 | 十五 | ちりめん | 十五 |
| 山茶花 | 十六 | 八ツ手 | 十六 |
| 冬つつじ | 十七 | 冬柳 | 十七 |
| 菜の花 | 十八 | 宝来草 | 十八 |
| 冬の山 | 十八 | 冬の月 | 十九 |
| 加茂川 | 十九 | 大根引 | 二十 |
| 恵 | 二十 | 大根干 | 二十一 |
| 生類之部 | | | |
| 鶴 | 十二 | 冬鳥 | 十二 |
| 冬の鶴 | 十三 | 木兎 | 十三 |
| 冬鳥 | 十三 | 冬の鳥 | 十三 |
| 鶏 | 十四 | 鶏 | 十四 |
| 鶏 | 十五 | 河豚 | 十五 |
| 鶏 | 十五 | 河豚 | 十五 |
| 鶏 | 十六 | 冬ちどり | 十六 |
| 足袋 | 十九 | 足袋 | 十九 |
| 火鉢 | 三十 | 火鉢 | 三十 |
| 冬ごもり | 三十 | 鶏ごもり | 三十 |
| 鶏小屋 | 三十 | 鶏小屋 | 三十 |
| 納 | 三十一 | 髪結ひ | 三十一 |
| 歌 | 三十一 | 雪車 | 三十一 |
| 納豆 | 三十二 | 芋ぼり | 三十二 |
| 凍 | 三十二 | 蝋 | 三十二 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 横 | 三十二 | 炭売り | 三十二 |
| 冬の月 | 三十四 | 冬ごもり | 三十四 |
| 寒ごもり | 三十五 | 寒ごもり | 三十五 |
| 冬の日 | 三十六 | 冬の日 | 三十六 |
| 蝶ちる | 三十七 | 飢つき | 三十七 |
| 凡ちらひ | 三十八 | 年の市 | 三十八 |
| 初春 | 三十八 | 屠見 | 三十九 |
| 春ごもり | 三十九 | 大三十日 | 三十九 |
| 冬籠 | 四十 | 都而四十一類 | |
| 春内三ヶ月 | 四十一 | | |
| 炭売り | 三十四 | 炭売り | 三十四 |
| 冬ごもり | 三十五 | 寒の入 | 三十五 |
| 猟人 | 三十五 | 寒の内 | 三十六 |
| 冬の日 | 三十六 | 冬の日 | 三十六 |
| 蝶ちる | 三十七 | 蝶ちる | 三十七 |
| 飢つき | 三十七 | 子神分 | 三十八 |
| 年の市 | 三十八 | 年の内ゆき | 三十八 |
| 春ちかし | 三十九 | 春ちかし | 三十九 |
| 春内三ヶ月 | 四十一 | | |


# 名月

## 古人五百影句集

### 穂之部

南瓢 曠 旭菴 龜足 行脚 恵仏 校合

名月や池をめぐりて歩すがら　翁

名月や門へさし出る柳かな　〃

三井寺の門出るや月の夜　〃

名月や入つ出つもなき雲ひとつ　〃

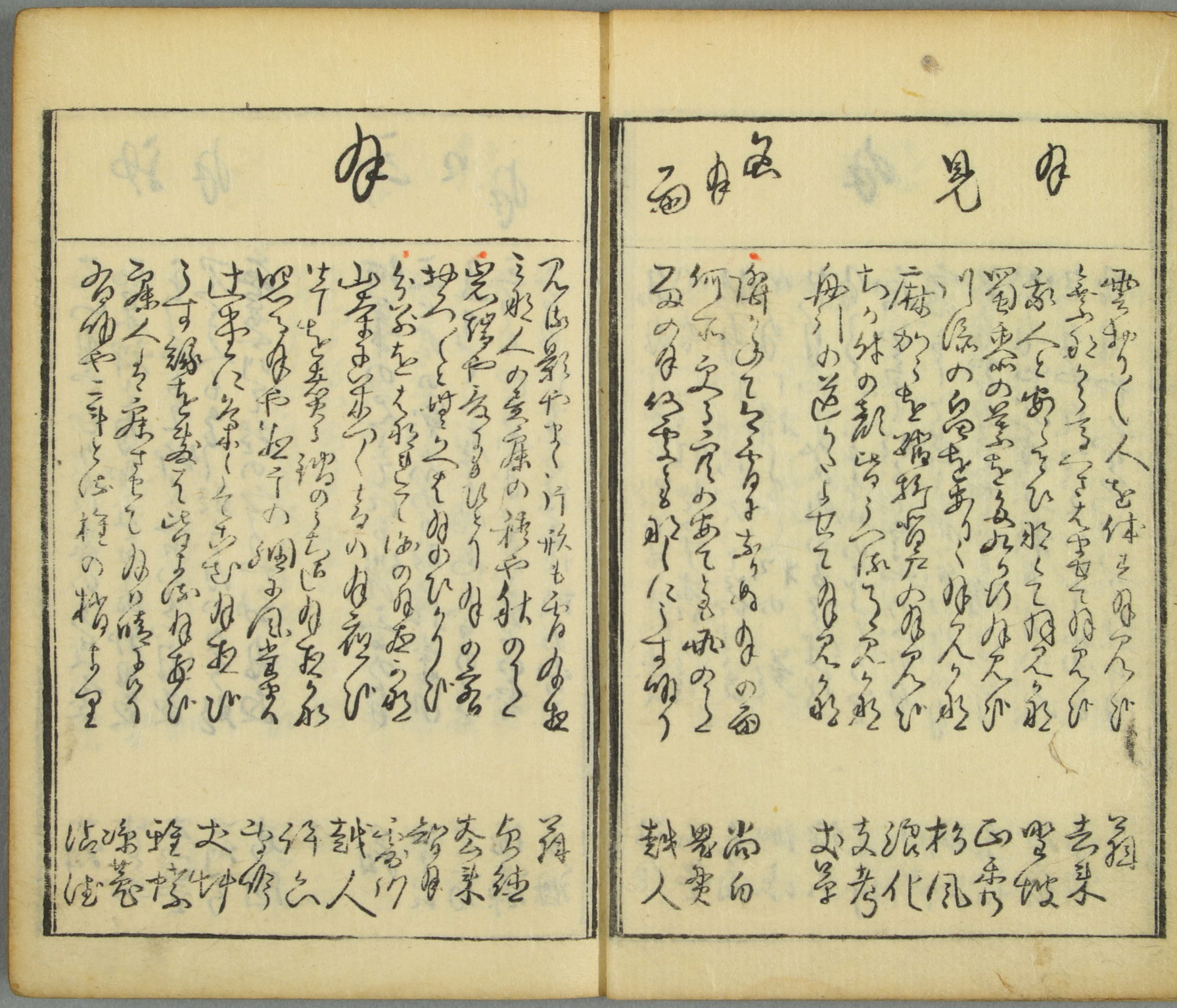
名月や畳の上に松の影　湖春

名月や畳の上に松の影　其角

名月や畳の上に松の影　嵐雪

吉兼　戦人　桜風　東西　鞠士　修純　四度　土芳　雪月　利牛　西路　柳花

杉風　海雀　春因　珈凉　絲六　赤節　山降　梅路　素竜　兮錦　西仙



沙弥　三日月

花の香やむかしに出家のもとゐ哉
聖衆来迎と月ぞなかぬ神無月哉
そらやとて行く三日の夜の月哉
名人も及ばぬものの夕べ哉
聖衆来りて法の夕べや神無月哉

何事の見えずにも低き三日の月
三十日の影おぼろに哀れ華やぎ
月すがしと庭に残るや三日の月
三日の月やすみにくい草の露
三日月や出家の法の先にたつ鐘の音

翁
中和
素堂
荊口
木因

翁
曾良
己百
桃隣
子興



綿霜

綿雪は霜やむかしもなき人の
綿人を見て綿の様子の月の影
中々に過ぎての綿ありき霜の雪
理を見て理の見ゆるの事の影
綿雪や理の命を理のすすみ
書よりや出家を筆の網の影
綿雪や霜にをく人も姿かな

十三夜を見つる月の末の夜
やすらひと見て置きつる月の雲
以後もひや海老を寒く塩との霧の雲

支考
李由
野坡
嵐蘭
東松
桃居
只風

翁
、
、

十六夜

後の月

いさよひや[illegible]の[illegible]　太米
白[illegible]に[illegible]月の[illegible]　野紅
いさよひや[illegible]の[illegible]の[illegible]　猿雖
十六夜や[illegible]の[illegible]人に[illegible]　乙由
いさよひや一[illegible]　作不染
[illegible]の代に[illegible]十六夜　尋[illegible]
[illegible]も[illegible]後の月　[illegible]
[illegible]の[illegible]後の月　支考
[illegible]の[illegible]後の月　西[illegible]
[illegible]の[illegible]後の[illegible]　[illegible]
後の月[illegible]　太米

星月夜

[illegible]後の月[illegible]　[illegible]
[illegible]の月[illegible]　杜[illegible]
[illegible]後の月　[illegible]
[illegible]の[illegible]後の月[illegible]　一[illegible]
[illegible]の[illegible]後の[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]後の月　[illegible]
[illegible]の[illegible]後の月　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

## 龍田姫　文月　葉月　菊月

眞先に[illegible]出る川ゝし姫　　利牛

連ての椿に待兼龍田姫　　杉候

文月や六日も常の夜には似ず　　翁

ぬるゝ事[illegible]ひたひは秋き姫の子　　其角

八月や矢橋に渡る人とめず　　千子

いの月や鯛のさかりを[illegible]　　去来

松茸も[illegible]九月哉　　泥足

[illegible]草の[illegible]細や[illegible]　　含羅

[illegible]の花の茶[illegible]九月哉　　俗化

## 初秋

初秋や海も青田の一みどり　　翁

[illegible]秋の[illegible]　　嵐雪

[illegible]の流れ[illegible]秋　　常[illegible]

[illegible]秋や古き槌の[illegible]　　之道

ひやひやと[illegible]秋[illegible]　　思貴

[illegible]蝶[illegible]　　北枝

秋[illegible]　　[illegible]

[illegible]扇子かくゝる[illegible]の秋　　[illegible]州

[illegible]初秋の[illegible]　　野童

[illegible]の秋　　柳[illegible]

中々や[illegible]定[illegible]　　[illegible]

一筋の[illegible]野の秋　　[illegible]

七夕

立琴

菊　其角
特撰　嵐雪
荊口　山陣
千子　乙史
石明　乙史
多賀



川

鶯

橋

頼ひの糸

其角　嵐雪
素圓　多賀
廣江　乙史

嵐雪
杉風

二十 蘭盆

椿 椿

二十一 竹籠

竹籠

正絃

送り

## 魂祭

玉まつりふも蟻塚のはふりかな　[illegible]母
なきくらく生まれぬし魂祭　季吟
白露の行しやられ玉まつり　去来
喰ものも皆見えさし魂祭　嵐雪
聖果もむて佛の世の縁座かな　丈艸
玉まつり又皆茶屋すたりけり　野坡
桑の葉や新手かゞみふ玉祭　洒堂
玉祭堺らみこそ家の奥也　北枝
魂まつり麻さに灯をかきさす　蘿守
いつも年の人もありけり玉まつり　雲口
玉まつり縄をかけて何をふまる　正秀
乳母が来て又泣もしぬ魂祭　山店

## 棚経　蓮飯

精霊の好みし人をあめめけり　丈草
貧時に若衆競あし玉まつり　野風
鬼灯の奥乞食しや鍛冶の部　去来
出清ら船や舟棚格子縁の上　名翁
いろいろの人来て又西に玉まつり　而明
棚経や角もかしまや子様若　如行
出て棚経や起のきさに小坊主のをうき　其角
棚経やよそめにもありけりて　句樓
棚経や小僧忍へて出て夜　舎六
誰むても何种をよ蓮の飯　一桜
松の葉に流れ世に包をさすの飯　支考

墓土
治

生
舟
魂

金
力
身

踊

仏
面
仏

# 名火殘暑

[illegible]

其角外家
桂々
[illegible]
[illegible]

四聖
[illegible]
[illegible]
[illegible]

# 相撲

[illegible]

其角
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

# 秌風

あかあかと日は難面くも秋の風
牛部屋に蚊の声よはし秋の風
かつらきあたりの嵐やあきの風
秋風や志ら木の弓に絃はらん
萩の葉や吹おこしくる秋の色
梅干し仰ぐ蜂のあまる秋の風
秋風の七重紗籠に吟しめぬ
秋風の吹色とかはる人の顔
料理につゝきよやあなの風
鍋汁や形のくづるゝ秋の風
ちるさくや鉢荊岸も秋乃勢
仰のくとかゞめし影秋の風

翁
杉風
去来
嵐雪
曾良
惟然
野坡
曲翠
正秀
越人
支考

秋風や稲かくしもてゆく手に入
すゝき紙の窓張かえて秋の風
あれりとや竹の中を出て虫の声
故郷より破扇あてゝゆる秋の風
ゆくしや夢の花の衣あくまの風
秋風や蒔絵子の歯の歯ありつく
命まるゝ走りなやあかるの色
秋風や庭にあひの痕癈の綿
秋の色に冷ゆるつて入里の松
蜂かせもやかてもすゝきそ聞
居なや茶盛りし漆子秋の風
茶の香ふのふるいそりし あさの色

其子
路通
千那
許六
野童
木節
帆雪
尚白
菫雀
子丑
許六
丹明

身よ
の
嵐
捨園
初
嵐



嵐

家園
吉朱
嵐雪
荊口
助陵
何風
青史

霧物

後の篇入

二百十四

[illegible]

源義光
北樓
小溪
芦角

許之
東平
一紅

古詩
古筆
柳原



稲

篇

[illegible]

義
甚角
吉集
和及
横笛
[illegible]
遊佐
[illegible]

## 野分

猿すゝむのに川渡し野分の夜
あれしてきえを海辺のゑけり
一葉の家ーもと高き野分かな
小家が中や野分に出ぬ家かな
烏人を待や野分に岸の掃青
包ちりや野分の尺のよく見え
瀧の末素みて急ぐ野分かな
鶏啼の尺延る野分かな
旦も知らし船捨て庭のゆをかな
湯かふりの末をとて行野分かな
花らくも打あれし野分の跡
月つくるけて打や野分の夜かな

只化
猿雖
仟六
文女
一笑
修士
芳春
沾化
素睡
柳拈
石仞



## 早稲 花穂

早稲の香や蟷螂とるる蝶の花
すゝきや早稲の匂ひの大きさ
弓も刈て出外口や小きり
前へて里はかり早稲作り
早稲も穂みもてあすの日と
弓の声や田中の一声の人出入
鶏の卯こ捨し穂この花
鶯も嬉とよりける垣ちむ
禅門の燈あかちを下る花かな
垣ちら穂取て今の秋暮
垣ちる捨ゑ鶏ゑ何の勤労師

才花
て生
乃紅
山嵐
村紅
曲翠
其角
亀翁
木導
楽字
乙生

本綿　永

田苅

晩稲

焼米

焼畑

逆巣入

砂鉄

本綿は丹波の山谷の雲
小野の里永神の郡にあり
綿の木一本綿を結ぶ時は
就つくれば相生代の吉の
里の名も巣あり新本綿は
野原に綿を植かへ花の綿は
ふくらんで白雪の如くなる
綿つくり世を治る根の
はつくりつくり世を治る
すくしと高くして

真角　泥土
卜坂　晩山
晩水

山杉風
元北

支考
敬雄

十九

焼米は奇くして形元近国敵
やたらに矢を無出人を責る法

芦の穂の穂の穂の
唐粧をかくして通る綿巣は

巣入や桜の悼も峠しの法
ふるふるやふるふる芋の葉

砂鉄や粉の粉の巣の粉の
ふるふる石の山の源の磁石形
ふるふる石の山の巣のふるふる
ふるふるやふるふる巣のふるふる

実那
宋祇

花宇
春宇

馬山
梨縄

荷兮
元北
巴芝
柳居

八朔　駒迎　駒牽

八朔の〔illegible〕しかく〔illegible〕
〔illegible〕や馬の上も〔illegible〕
いさ駒や〔illegible〕の足をかり〔illegible〕
いさ〔illegible〕や〔illegible〕の〔illegible〕
〔illegible〕も〔illegible〕のすり〔illegible〕や駒〔illegible〕
駒むかひ〔illegible〕
〔illegible〕も〔illegible〕し駒むかひ
〔illegible〕あ〔illegible〕の〔illegible〕や駒迎
一の〔illegible〕や〔illegible〕駒むかひ
駒〔illegible〕や〔illegible〕
駒〔illegible〕の〔illegible〕

許六
含楽
乙雪
配波
蕉笠
西秀
〔illegible〕
許六
去来
其角
〔illegible〕



放生会　迎火　鳴子

〔illegible〕放生会
〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕放生会
〔illegible〕迎火
〔illegible〕出る〔illegible〕
〔illegible〕も〔illegible〕
〔illegible〕鳴子の〔illegible〕や〔illegible〕の〔illegible〕
〔illegible〕のなりを〔illegible〕

松〔illegible〕
〔illegible〕
〔illegible〕
乙由
蕉〔illegible〕
〔illegible〕
其角
〔illegible〕
〔illegible〕

# 室山子

世話にも形にて拵めく室山子
遊ぶ子は拵ひ苔の子かしら形
稚子は拵やうに拵へて
乞食にも乞ふ形は形あるかしら
居風呂の下やかしの所の和尚
地の主ひとり室山子
ちらしの下の下の下の下かしら形
絵物語かしの物の山の絵
一緒にしてかしの子供
山賀を驚かせらるかしら
遊ぶ日も拵へて拵へて形

西条
桜傳
屋敷
硯屋
大学
九兆
柳井
孫屋
吉秀
温故
家

引板乃書

文学に学ぶ学問の書
晴れを引板乃書もう形

実は
硯屋
秋色

家
学者
大盥

実は山の蔵を引板乃書
秋も大和すの秋の形
是かしら一人よりしの
文学も絵ひとり形山室
絵さひて石ひとり形ひ
ちひさひて絵ひひ山の尾
温故の文学の尾
室山子

嵐雪
乙州
雪松

前集　　丈夫　防風　白貴

和銘　　嬰兒　杉俊　寒玉

鏡　　李考　李範　柳花

河兼　　尚公　李郎

鏡　　重賴　李國

長鉛　　行之　李破

汝急　　李石

## 外市新うた

[illegible]

新たなる伝説の武士を中心とする
市井の新たなる歌うた

義経風柳生
吉野丈夫

猿蟹の猿の仇をとるまでは
母の目の安らぬ蟹の姿
折しも船うち出でゝ
子の居て志は
寝入りの蟹

義経
弁慶
尚武
山川
[illegible]

## 椿姫

[illegible]

一井
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

# 漸寒并夜寒

秋もはや[illegible]やゝ寒くなれ　野坡

風しやゝ寒ミ[illegible]の花も物の音　風国

[illegible]　嵐蘭

[illegible]　思愛

[illegible]　平考

[illegible]　意元

入込の下葉[illegible]夜寒かな　翁

[illegible]夜寒かな　丈草

[illegible]　風麦

[illegible]　西秀

宮人の[illegible]夜寒かな　程巳

[illegible]　路風

[illegible]　李由

[illegible]夜寒かな　支考

[illegible]夜寒かな　暁止

[illegible]　紀化

[illegible]　丹芝

[illegible]　巴静

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　石[illegible]

新潟酒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 掩乃暮

# 樣

菊
菊

梨
梨

芙蓉
芙蓉

秋の月
秋の月

秋の雨
秋の雨

秋の雨
秋の雨

一葉柳歌

一葉しら地に相のあさとり
[illegible]柳の二葉かな
相の葉もはるをかさね井戸の水
ちくの葉ちるをはるに落あれて
西王母の柳のすてゝ[illegible]

葉の色にて中くかるる柳びと
ちる影をすがるらん花やちる柳
[illegible]の柳歌
[illegible]
ちるを惜る柳をちる歌[illegible]

尚公明[illegible]
絵元
鬼つ[illegible]
[illegible]破

[illegible]風
[illegible]
[illegible]士
[illegible]
[illegible]明



草の花

草の花のあるかぎりは
[illegible]
[illegible]草の義
[illegible]草の花歌

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]草の花歌

世帝花

ひらゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

木槿

蕎麦花

嵐山

岩倉

夏珠

男郎花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 撫子

# 女郎花

# 秋海棠

# 萩



# 萩

萩風の吹きぬる秋の夕べ
地にのこる虫の音
萩の花
散しもあらじ
秋の夜の
月の光
萩の花
秋の夜の
月の光
萩の花
秋の夜の
月の光
萩の花

稲
乃
之
雷
撥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓮の実

蘭

さを鹿

雲

桔梗

薄　紫苑



豐　菓　畢　竹

# 蓼

蓼の花

蓼の花

蓼の花

# 竹七
## 葛籠

# 菓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廢花　紅道

赤桂　其角

雪仙　一山

桂伊中納言　少漢

伊勢物語　素牛

菊

廢宮　故定

越後

柳原

萩

桐の花

一方

猿道

女郎花

菊の露地

義

聖經

桐の葉

桐の花

女郎花

## 竿

竿の葉やは結屋のやきの間
いなむらの沢ゝの水の音
山畑の竿あるあとは沖拔
つるの家ちかの竿の歩人
子をあめて竿懸さて出る

蒔山
真角
高秀
竹

## 竹葉

竹の葉さらさらの風
葉角やめくしの中の中の
荷かの結るあるあ風
かくうやきちてゆらゆら

初足
尚公

## 加茂菅

猿蓑
夢之

## 木屋

木屋の宮さ出ゝ香猿
りゝ出ゝ自ひすてゝ

嵐雪
此角

## 木の実

ゝゝゝゝゝ木の実に
竹葉の葉
北山の家ゝ木の実ゝ
屋山の猿ゝ木の実ゝ

雨雲
尺竹
此角
秀

## 紫蘇

紫蘇の葉ゝ伽藍の
少人紫蘇の葉ゝ
少年ゝの葉ゝ

見風
牡年
為方

## 桜のこと

桜の葉ゝ
桜のこゝ

宗屋
思つ

# 苺

## 苺

杉苺や古くあるかの苔の庭さうび
訓ぶるや中ごろは春秋の雪
杉苺や訓よりちうれる山の味
さつ出るけや陰ある清水一ぱいうつる
訓苺の雪に降ぬす小雨あり
一つの岩のもとにしたがひ蛍夢うあり
さつ出るや人もなき山の岩の出
さつ苺の高くうれる岩ぶし

蛭谷
沾圃
智月
梅志
去来
沾蓮

苺特やの色の失形ふ二月かなる
出る特やさるかの枝を出る
うるしと鳴て出るやの園特

其角
西鶴
山崎

# 栗

## 熟柿

苺特やいかなる山の岩ぶし
出るかりの心鶯なるうる
さつ栗を拾ひつるの岩ぶし
ひろ栗やたるうるて山の
焼栗原ふるうる山地ひ
心ひろやひろうるもて
鶯のもとに折しもの

利合
金峰

其角
芳菊
文蝶
風外
柳居

## 熟柿

鶯よ秋のもとにしたがひ熟柿ぶ
ひろかるうるかの岩陰ふ
もるるもて日の地ふる熟柿ぶ

去来
為有
嵐雪

## 紅葉

## 蟬

## 秋蟬

秋蝶　秋蟬　秋の蝶　秋の蛾

蝶ちらく花にけさ遊ぶ秋の蝶　其角
秋乃蝶影伽羅も絶くたちあくめ　和及
秋の色つまのとまりの蝶影　一笑
秋の蝶ゆるまを惜しむ秋の蝶　作者詳
心ちなくたゆたふ秋の蝶　四明
一つの花より移る秋の蝶　雲仙
秋ふかしいつ出る秋の白蝶　四友
秋の蛾の点ずく書き蝶　村長

三十七

蓑虫　蜻蛉

蓑虫のあらはす秋の蓑　芭蕉
この中の蓑虫ながら鳴く蛍　芭蕉
蓑虫の音を聞くやこの夜の月　芭蕉
蓑虫の鳴くや秋の夕暮れ　芭蕉
蓑虫の鳴くや秋の夕暮れ　芭蕉
蓑虫の鳴くや秋の夕暮れ

# 繻蜂



# 機織蜘蛛

一る

## 鉾墻婦

## 水

## 古

## 橋渡

## 今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歸去來

[illegible]

四靜原帰

略

[illegible]

山別

## 蘇笛

蘇笛のこゑをたづねて
高き笛の四つをおくつを男鹿の
ひとり帰る鹿ぞかなしき
遥かなる蘇のしをれ
遠かしも蘇の
高き所 遠き所
蘇の花 あるいは

源重之
男舟
之道

樹の
多金

蘇
北義
玉葉
西行
源基

## 蘇

蘇帰 人の都をこの所
なしらの帰をなつかしの蘇
明をもとめて帰るこの蘇
蘇の花 蘇の
志らの山をあかしてあるこの
志らの山をあかしてあるこの
一ぱいの蘇 一ぱいの蘇
蘇の花 蘇の
志らの花 蘇の
帰 蘇の
蘇の歌
蘇の歌
蘇の歌

# 蜉蝣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荊棘中[illegible]の[illegible]の私の雲　[illegible]

# 砂雪

古人[illegible]句集

[illegible]部　南[illegible]隠　[illegible]　[illegible]　[illegible]　校合

砂雪や[illegible]の[illegible]　芭蕉翁

[illegible]　其角

[illegible]　桃隣

[illegible]　[illegible]

[illegible]

孤屋　雪之伴六　仙化　利生　吉来　山川　本国　其角　和及　柳北　百舟

雪

京士　麻父

蛙

〃

去来　其角　岱雪　紀貴　湘裏

# 雪



李由
太祇
紅花
波村
杉風
如雪
西鶴
其角
猿雖
浪化
泥足

芭蕉
貫古
水花
不玉
時花
蕉文
西鶴
自葉
源義
湖柳
李綠

# 雲坡志

海山の名寺しつて妙光を仰ぎ紅塵を外にして紅葉の間
に秋の雲ゆきもあらしに吹かれて月の
出づるを待つ萩も水もぬるむ春の
山寺賞の楼下に出づる夕べ
うつりて行く雲の色花
あらしして北の山
に入る

乙物
雲間
秋の月
時雨
鹿
夕
春雨
岩

志中秋の月の雲の方
色もしに傘持ち来る
一志紀り東の山のぬしを紀る

丈草
雪柳
蓮口



# 沙時面

沙志ゆも猿も小蓑を呼しをと
りの文うり人も来ぬ沙叫ん面
春の羽もかいつぶり人も来ぬ沙叫ん面
秋芒果の砂利の雪下の沙叫ん面
叫ぶ石垣の結月や沙志くる
沙月や二粒降てもはつしみ
新蕎麦や石も人の沙叫ん面
ふ迷ひて叫ぶ石ひり志ぶ
う沙叫ぶ果の浦を雪も沙時面
志沙ぶ志の行ありはつしみ
ものやまこし叫ん面本屋
志ん志の何しる沙叫ん面

芭蕉
志乗
雪
俳半
源生
沙叫
乙空
荊口
政頭
乙空

# 志のき

柳葉
多綾
馬蓐
宣子

蓑
其角
志賀
霞沽
丈草
杜国
烏文

## みとり

寒かな

足元をつゝむ雲の出羽路哉　芭蕉

松杉よりひとしほみどりなる時雨哉　素堂

時代の歴めぐりを志ぶる雲の峰
いかゞよ傘をくくみて雨の中　雲英

出羽の国つゝ寒の雨
破鐘のぬし花ぬすびとの面　芭蕉

元禄
元年
潮雲
其角
嵐雪
芭蕉
宣世
山川
風国
雲英
雲鼎
雲英
支考
尭雄
芭蕉
史邦

# 霰



[illegible]

羽
崑玉
杜國
耕雲
卯七
聖俊
玉春
聖壹
抹竹
巴五
昌房
柳花

# 霜柱

[illegible]

羽
[illegible]
北越
夕北
[illegible]
杜國
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨の中にあるて一日の春の形
てらしとなるのおもてをさかりて
空中に一時の光りをかがやかす
今日しの新年の春の用さしの
道上の整めしく格のかまの雑
物変して改めたるものなれば
紫角のみまてにかまつる春の形
にの色に僅にかすかなる雪
野のうてすけて所をかくふる雪
時をしちふる春の雪雪増をなす
故春よりかまの雑の物まつし

故通
物映
理物
春紙
春堂
春の田
春岩
旦夕
遠方
雪石
雪日



霜月の中旬のはくしあるをあて
高きのかれのひろうのかまを
霜月の高きの初しるひろ所

荷号
高の春
白月

何よりも師走の年くれのかつを
頂れり師走の海の船のつを
山林の月をかれ師走の形
世の年を物のくれこの高すび
高年高年の年の年の師走び
年に入て高はしるをたすび

羽
雪雪
ぬれ
而澤
高年
乙巳
春士

師走の年の年の年の師走び
年を偽るを多年の師走び

## 神道源流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹葉
神楽
星かみ

十

極楽寺
智恵
下風

其角
去来
史邦
芭蕉

源化
許六
雄道
八条
杉風
史邦
乙堂
乙堂
岩翁
石仏
柳花

十

極楽寺のつもりの花に十夜哉
禅門の法華経あり十夜哉
源氏を除て連歌十夜哉
志賀の郡寺紀十夜
産神の縁の十夜の婦のこと
月風を抱て星に十夜哉
霜の降るの寒さ十夜哉
連歌所石仏の影の十夜
坐禅の高地の影の十夜
連歌所高地の影の十夜
玉眼の高仏寺の志賀の二十八代目
杉の風

蓮戸
志賀

## 御命婦



## 古取

## 御婦

# 紙敲

紙を切て書たる詩歌の
短冊を又は懐紙
を折畳み懐中
に入て出す
紙敲

[illegible]
[illegible]
[illegible]

# 落葉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 風

風よ雲行雨行は杉菅丸の知
あがりの時より家毛の山の書
風のそよぐ音あり海の書
あがりの一日なれば
風に一日のあり
あがり風より雨の雨
あがりや地くさ
風にあらず書
あがりの梅の陰
風や蓼の穂
あがりや蓼ちる
風や丁子あり
ちりやもみて
風や蓼下の赤の
蓼花
源氏
蜻蛉
蓼
蓼
蓼

嘉

歸

枇杷

山茶

[illegible]

歸花[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月

梅

梅

梅

梅

梅

梅

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文蠟　拔花

菜の花

菜の花

菜の花の世なりけり
菜の花の黄の花の花の
菜の花や昼の鶯
菜の花や橋くぐる
菜の花や月は東に
菜の花の黄の
菜の花の
菜の花の
菜の花

石蕗の花

柱蓋

柿の花



柿の葉

この頃

柿の山

柿の山

# 桔梗

補註の世の中に死ぬ桔梗かな
一茶
ちるもまたもも桔梗の山風に
小男鹿のかさ形の蕾る桔梗哉
西の海——異体字なりされの形
以下略
桔梗の花の蕾に
より孤し蕾桔梗
あもかさて物箭に形かと蕾び
咲て以下略の蕾の
桔梗に見て
嬢の桔梗
大きく一筆桔梗
以下略

其角
曲翠
士芳
許六
牧童
尚白
芳山
童行
絢童
共仲
蓬生
宗緯

十四

牛の形の蕾の桔梗
出て四く蕾の桔梗
蕾の間の桔梗
子の尾すかけ蕾の桔梗
桔梗の花も山の
桔梗の蕾の角
桔梗の蕾の
金只五形入後の
桔梗
蕾の
桔梗を
桔梗の蕾の
よハしの形
かくまの蕾の桔梗

機嫌集芭蕉
丈草
新敷
嵐雪
風流
曾破
智月
去来
支考
乙州

大根川
在所
葉
葱

蘿蔔
許六
京足
漁童

蘿蔔
桐之葉
素行

梅の
鶯蓬

蘿蔔
沢の
風国

蘿蔔
一井
乙史
雨竹



麦藁
鮒鱠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 鴨



北条
安房
鴨
木兎
水の隅

鷹

鷲

鵰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 細代守

高氏を陸奥の細代守
高の家になりて細代守
守代守所にて細代守
守の影和人を蹴出す
陸奥より出でし細代守
守と記四書和尚の
細代守数利こつ書も
日蓮の名を割り
守代守ひれて
細代守を報道
世にしし菩提の細代守

大菩薩
文殊
有元
宣元
本尊
林信
高宗
書不
未見
基角
蓮若

# 羅林　生海嵐

嵐山清水
菊春
印七

羅林の名を流さん
羅林の名を流し
栄つ春や流るる雲の花

生海嵐
生海嵐の名を
くらしと海はるる
砂の野の生海嵐
世をのがれ生海嵐
永遠の嵐を
妻乗の名をすて
流れの名

嵐山
菊春
印七

蓮
吉来
東庸
竹彩
安沾
嵐雪
多賀

## 鰤河豚

鰤むしやの家にて鰤をし海豚の傳う形
珍らしき物なれば文

其角
不卜
光雲

鰤
其角
一調
和雲
水長
其角

## 鱈鱗

鱈鱗

鱈人にとりて此物さきし除庭
さきつ堂に鱈鱗の殘りを取
鱈鱗を出せり其角
出世にて十四源四郎の名跡を
かりて死しうなの口のあれ
鱈鱗の事を法りて二墨しれ
出世を宮こと鱈鱗つらふ嘗り形

志仙
己百
百里
蔦色
雪笑
義芝
了雪

生世にて鱈すハ公にに出ふ宿
鱈屋にしるも出ふ形ふ
鱈ひふ桂ふ動ふ
いにしへの津人なにふ形ふ鱈宿

文考
孫蕉
英雄
左近

# 世話

松茸持て来る狂歌

清和の崖のさきの家しの秋
ゆふ雨しとゝ帳場に入る
坂出ひらく業後つゝ寒く
雨降ゆふ雲出さきの
流るかゝ様子源の
ひまひつゝ出て来の
鷹くゝの清水の
大鰐の刺刀の
人数の後ゆを
多田ゆて机
飯屋後ゝ

# 冬木の星

[illegible]

[illegible]

[illegible]

## 蛸

## 蜂子

## 頭巾

## 足代衣

# 火燒

[illegible]

# 燈火

[illegible]

大梅

史錄

湯婆

絹布

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切　疣子　事納



[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 氷

[illegible]



# 雪 雹 霜 霰

[illegible]

## 搭

おらの大や嘆くこの女こい大
搭のたやあくらに帰さうくす
ゆくこの大に新を延さ[illegible]
おあくの大に新の色のうの
嬉をめくる命つまを搭の城
形らしく搭たくあくこうく後

文亭
雪川
寺集
搭志
四会
百物

## 炭

すこ寝くくを貧の搭の側をいう
炭くは中ゆを忽と搭のと
さくこの名を集のくくおるくく蝶
炭焼のひくくくくくん寝の孫
さくゆくゆ新くゆくくゆくく

丸兆
風律
四人
其角
柳北

## 炭寝

炭ゆくくも黒ゆあくくの炭撃ひ
すくこ寝の作く蔵くは自ひく新

湯殿
百物

かくこ炭くくくの赤の黒くく紀くく
炭くくくもくくこ水くく寝年ひ
炭ゆくくく洗ひあくくて炭信
うくこ寝くくくくくの炭の黒ひ

其角
嵐雪
紅日
戦争

炭ゆ寝年炭ひくくの明ひくく
すくこ寝のゆくくくくくくあ

地を
亡霊
五

冬乃夜

[illegible]

其角 杉風 太華 土方 高橋 乃房 城江 木導 樗堂 毋解

寒の内の入

寒がらす

寒垢離

寒の内や[illegible]

[illegible]

寒の内の入

[illegible]

[illegible]

寒がらす

[illegible]

寒垢離

寒垢離の[illegible]

[illegible]

荷兮 深志 柳居 義仲 年尾 義角 [illegible] 沢化 [illegible] 土

[illegible]

[illegible]

[illegible]

# 煤掃

煤掃とは木の枝の先に竹の筒を
結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ
煤掃とは木の枝の先に竹の筒を結ぶ竹の筒の長さ

餅搗歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宰本題

宰本題を探りて詩を探りて詩を探りて詩

# 年内立春

[illegible]

年のうちに踏むこむ春の日[illegible]
連歌師の[illegible]
[illegible]の春相[illegible]年の[illegible]
春のひかり足し[illegible]年の内
年のうち遠[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

近刻

# 續篇今人詩歌文和自集　乾坤二卷

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]七十二俵の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

数えたる事しかは古歴ある所の都なる所
なれ白妙の天羽衣の正しき姿の
明きものを東の輝のめくらう日出を
形きしかは数を連ねて人なる是を
宝と称せしかは宝なるかはは
富をもとめのはるかに中世の宝樹つば
山水の美しきに遊ぶ人の宝樹
なく



以ておもふに物を知るものあらんかは
相愛敬を故人の形白髪の
かの体を重ねとアンをまつ
乃ち第一嘆言形の
古を計る諸しかは前無ちて
ちなる喜を嘆人て事
庫のごとく紙面寛のかはりに
仏刑譲る誌也

[illegible]
丁果詩集 [illegible]

江戸四日市廣小路

上總屋利兵衛梓

柳花


俳諧歌句題叢　全四冊出来

此書は俳諸の名歌。情景。蕉村。曉雪。蘭更。夢巴白雄等の句を題にして俳諸の名歌句題叢の成れるなり。俳諸の名ある人々の此書よりえらびとりたるもの多し

俳諸歌句題叢後編　同　刻

蕉翁の名句二冊　祝　送別　羈旅　歌詞　述懷　陸奥神祇　歌名　物の名　色　季節　季名ある句并文章の部二冊　部ごとに巻二冊宛迄刻出来

俳諸歌人五百題　松尾芭蕉ほか人撰　小本　全二冊出来

此書は歌人ごとに成れる句を抜萃しるし世事に関係なき人数のみならず[illegible]人数の名を[illegible]

俳諧續故人五百題　全二冊出来

俳諧今五百題　夢南先生輯　小本　全一冊近刻

芭蕉翁奥の志をり　湖日軒像輯　全二冊出来

でせ代文藝圖　全一冊　俳諧[illegible]　全一冊

日本紀記々歌集　賀茂真淵門人林居士　諸鳥枝　全二冊

正徳かな遣の人　賀茂季鷹輯　全一冊

增補狂歌林抄　狂歌堂真顔大人閲　隨之橋茅人大人著　全四冊

狂歌あやめ草　狂歌師匠名人大人関　大人著　全二冊

狂文四方の花笥　置山人著　江戸宝暦板　全二冊

狂文賓会乃記　[illegible]の重綱輯　外叢名称目録　全三冊

俳諧発句のあゆみ　葛飾の社編　道世流行名人歌　全二冊

類題俳諧歌集　四季　恋　雑　員歌　物名　連歌　落書　四方歌垣大人輯　前編　三冊　後編　三冊

此書は上古より元禄の頃までの歌人の俳諧歌を代々の撰集ならびに家集よりひろいあつめ部類して一冊の書とし、なお二部類歌又は俳諧歌をもこれを分ちて部類の傍に書きそえて附て俳諧歌のあるかを知らしめられたり

立春　かす　春　立　来　夜ちるさくらぬと咲ちるさくらぬと　裏　裏　忠房

元日聞鶯　法連　法めかすて　立　神　なるる宮の松ぶるまてまの声あるるこゑのあるる　明　西行

なるごとくかくのごとくあるべからずとかくのごとくあるべからずとかくのごとくあるべからずと

俳諧發句題叢　椿丘太節先生輯

名所
地名　全四冊

一名俳諧千五百題

延壽養生談　全一冊

左傳杜解補　漢鍾先生著　綿城先生序文　全一冊

茶人系譜　故實今物語　全六冊

風流志道軒傳　平賀源内著　全二冊

根なし草　風来山人　平賀源内著　全二冊

大山系譜記　杉本久作　寸珍　一冊

新刀銘盡　桂林山人校　全一校

浮世千谷先生遺書札文集 全一
浮世千谷先生遺文集 全一
王尚帖 全一

流家 市川先生学 花鳥往来 全一
流 湖鳥集 全一

流 三十六歌仙 松花堂昭乗筆
本 高麗帖 恵洗先生筆 各一冊

狂歌二葉集 演色墨人輯 全一冊

俳諧九日集 一具庵夢南漢 全二冊

俳諧さゝ砂子 青猿翁選 全一冊

四方合巡賛代表大成 古夢道人作 小本 全一冊

実法教童子教 振鷺亭真居著 全一冊

教訓蒙初門 浮家流高山西知筆 高山西知筆 全一冊

将棋啓蒙正義　仙翁先生著　全一冊

新選碁経大全　秋山仙翁著　全三冊

俳諧茶摺小木　一具　夢南上人撰　全一冊

語録詩話文集　関蘭山先生著　かな　全一冊

古状揃諺釈　高井蘭山先生注解　全一冊

今川童蒙解　今川状ニ変入ル細注　初学ノ小子要ス　全一冊

御成敗式目諺釈　高井蘭山先生注解　全一冊

算法點竄指南　大原利明著　全三冊

俳諧[illegible]　全一折

乙二句集　一具菴一具輯　小本　全二冊

先生一代の発句を集め[illegible]

俳諧[illegible]　洞海舎涼谷輯　全一冊完

将棋弱[illegible]　伊東宗看先生作物　全二冊

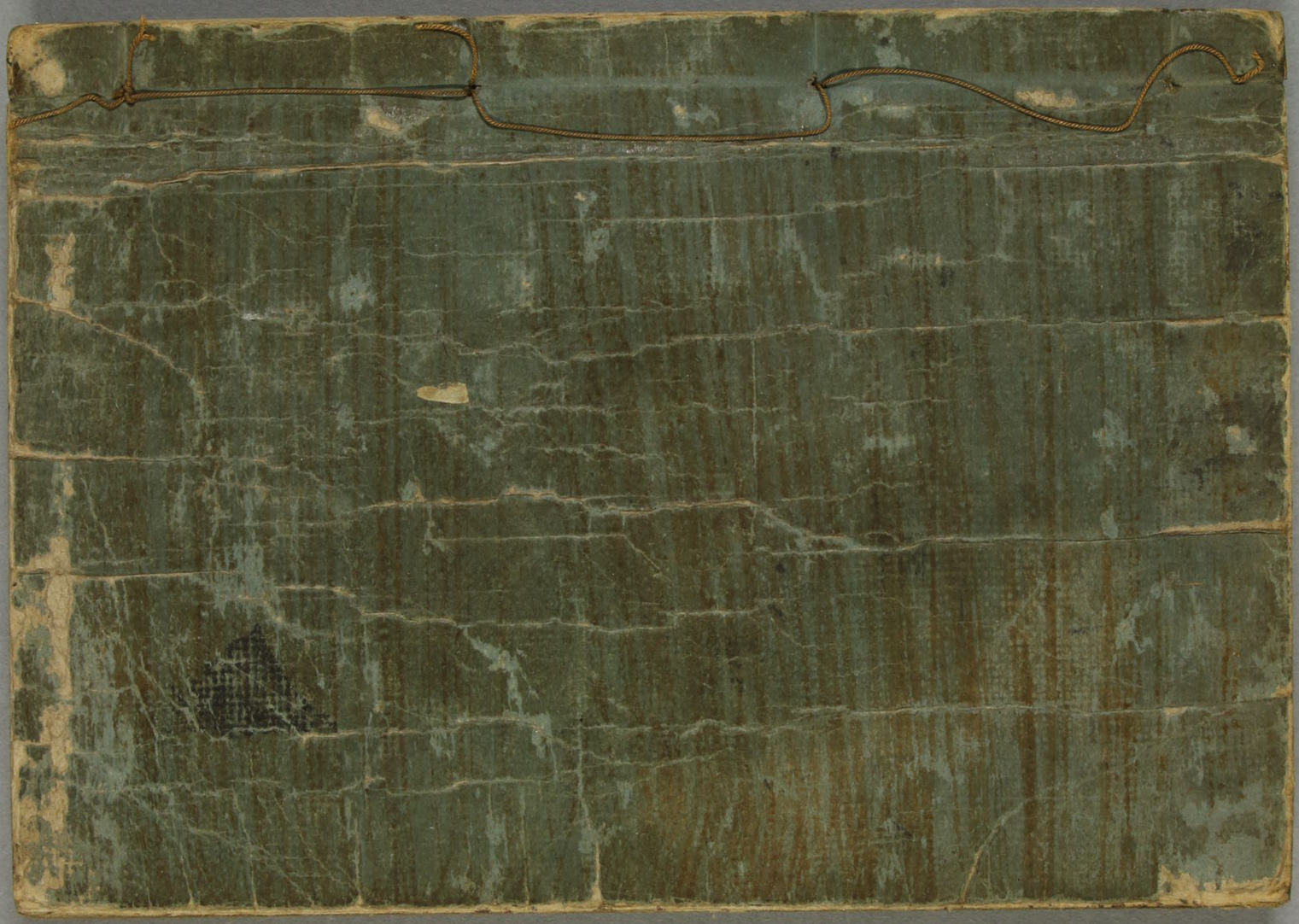
三鮮唐詩選　鳳岡先生著　真草彩石摺　全一冊


東都書肆

日本橋四日市廣小路

桂林堂

上總屋利兵衛

同

惣兵衛